

NPO と行政の協働会議

2006 年度 第 3 回 全体会議事録

開催日時： 2006 年 10 月 23 日 (月) 15 : 00 ~ 16 : 30

開催場所： ひょうごボランティアプラザ セミナー室

出席者 (幹事等名簿) :

(敬称略)

区分	氏名	所属団体	出欠
NPO 部会	黒田 裕子	NPO 法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク	(代理)
	坂本 利明	NPO 法人グリーンアース in 淡路	
	杉野 慶一	NPO 法人 Green Alliance	×
	吉富 志津代	NPO 法人多言語センター F A C I L	×
	能島 裕介	NPO 法人ブレンヒューマニティー	
	前川 裕司	NPO 法人コムサロン 2 1	
	松岡 孝司	NPO 法人アップストリーム障がい者支援センター	×
	寺本 弘伸	NPO 法人宝塚 NPO センター	×
	山崎 勲	NPO 法人シンフォニー	
	河口 紅	NPO 法人さんぴいす	
	竹村 太佑	NPO 法人 H I N T	
	貫名 康雄	NPO 法人福祉住環境サポートセンター	
	山川 茂光	NPO 法人いきいき将来設計工房	
	山田 幸雄	NPO 法人 A S U ネット	(代理)
	山下 満	NPO 法人環境カウンセラー会ひょうご	
	石野 靖弘	NPO 法人 I M M C	
	田辺 克之	神戸フリースクール	
	山崎 清治	NPO 法人生涯学習サポート兵庫	
	田中 一臣	NPO 法人ネイティブ淡路島	
	真田 由美子	NPO 法人マザーズサポーター協会	
平 真弓	NPO 法人宅老所光明の家		
牛建 文彦	NPO 法人ピア・しんぐう	×	
行政 コメンター	畑 正夫	兵庫県県民政策部政策局ビジョン課長	×
	鬼本 英太郎	兵庫県県土整備部復興局復興推進課長	
	藤原 純一	兵庫県県民政策部地域協働局参画協働課長	
	青木 秀彰	兵庫県産業労働部しごと局しごと支援課長	×

事務局	プラザ	小森 星児	ひょうごボランティアプラザ所長	
		高橋 守雄	ひょうごボランティアプラザ副所長	
		市田 秀夫	ひょうごボランティアプラザ事務局長	
		稲垣 郁子	ひょうごボランティアプラザ事務局次長兼交流支援部長	
		岩根 登	ひょうごボランティアプラザ交流支援部副部長	
	NPO	辰巳 真理子	NPO法人ブレンヒューマニティー	

協議題	(1) 前回NPO部会(9月14日)の結果について
	(2) 専門部会の設置について(NPOへの委託・補助事業に係る研究会)
	(3) 出前出張会議について
	(4) 今後の運営について

協 議 内 容

議事概要

(1) 前回NPO部会(9月14日)の結果について

NPO部会にて協議後、運営幹事での打ち合わせをおこない、生涯学習サポート兵庫の提案については個別に協議の場をもちたいと考えている。相手方行政は教育委員会義務教育課を予定。

前川幹事、田辺幹事、能島幹事がNPO部会幹事として参加、藤原課長が行政部会幹事として参加する。

日程が決定すればメーリングリストでお知らせ、追加で参加を希望する方を募る。

(会議終了後の調整にて、11月16日(木)13:30～ の予定となった。)

(2) 専門部会の設置について(NPOへの委託・補助事業に係る研究会)

前回の全体会で、提案者のC.S.神戸と参画協働課で協議することとなっていたが、協議がまとまったとのことなので、説明願いたい。

(資料「NPOと行政の協働会議専門部会の設置について」に基づく説明。)

NPO部会からの参加者は、年度末までの集中した会議運営の必要性等から3名程度を本会議のNPO部会幹事から募る。人数を越える場合は投票としたい。

(立候補者)

- ・山崎幹事(NPO法人生涯学習サポート兵庫)
- ・能島幹事(NPO法人ブレンヒューマニティー)
- ・黒田幹事(NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)

(異議なく、以上3名がNPO部会から専門部会に参加することとなった。)

専門部会での議論については、適宜、全体会議で報告をおこなう。

結果が直ちにオーソライズされることにはならないが、今年度の専門部会のゴールとしては、評価の方法や評価基準等について一定の結論を出していきたいと考えている。また、中間まとめは、全体会に報告して、意見をいただく形になると思う。

(初回会合は、 1 1 月 2 日 (木) 1 0 : 0 0 ~ 開催することとなった。)

(3) 出前出張会議について

尼崎で 1 1 月 3 0 日に出前出張会議をおこなう。予定している議案候補は下記の 3 つ。

- ・安心、安全
- ・空き施設の利用について
- ・指定管理などの委託事業について

個別的には、森づくりとか県民交流広場とかの意見があったが、それをどうするかは検討して 3 つプラスアルファと考えている。

形式は、グループ分けのワークショップ後、成果を発表。

場所は尼崎市中小企業センターでおこなう。

時間については、 1 3 時半 ~ 1 6 時半位を予定している。

尼崎だけで 6 0 ほどの N P O があるが、新しい団体を中心に来て欲しいと考える。尼崎を中心に阪神南・北と広く 5 0 ~ 7 0 名程度が集まればと考えている。中心になって進めているのは、尼崎の交流会で、尼崎市の協働参画課と社協と N P O の 3 者でやっているのだから、当然そちらは出席される。

(4) 今後の運営について

各県民局単位での行政と地域 N P O の連携がとれていないというところは多い。地域会議を協働会議がサポートしてもらい、通常は地域会議を定例的におこない、全体会は地域会議のとりまとめや報告をおこなう形式にできればよいと考えている。地域での課題を一度整理し、年に数回、全体会議のような場所で地域の取り組みの発表をするような形がよい。

地域別という考えもあるが、テーマ別の協議を実施するという切り口もある。

欠席の畑課長からもテーマ別の会議を平行して実施してはどうかという案がでている

事務局としては、地域別だとサービスの提供が非常に難しい。お手伝いはするが、会議の招集、資料作成、議事録等、会議の整理を自前でやっていただくという形でないと難しい。地方の方は、特に県の情報が欠けている、県とのつながりが無いとの話は聞いているが、地域のことは地域主導で進めていただければ、プラザは県との関係等で協力させていただくという形でお願したい。

各地元自治体との関係で、行政との協働に関する気運はどうか。

姫路の場合は、協議会があり月 1 回集まっているが、協議会の場に行っているメンバー以外はなかなか共有できてない。県民局主導で地域の協働会議を開催できればと考えている。

尼崎、播磨、西宮が現在地域で定期的に N P O と行政が集まる会議の場を実施している。

神戸市では N P O だけではなく地域団体を含めた神戸円卓会議の予備会議が先日できた。来年度の会議開催に向けて、行政、N P O 等の関係者で準備を始めた。

姫路では、オブザーバーとして行政が参加しているだけで、行政と N P O が同じプラットフォームに乗っているわけではない。会議を県民局単位で作れればと思うが、まだ入り口にも行っていない状況。

今日の資料では、京都府が N P O と行政の分野別交流会を実施しようという事例もある。

京都府は、政令市を持つ都道府県で唯一、プラザのような施設を持っていないところなので、追いつけという意味もあると思う。

尼崎ではNPO交流会を、NPOの各団体に呼びかけ、3年ほど続けているが、マンネリ化している。それとは別に、市民をまきこみNPO活動市民交流会を立ち上げた。昨日尼崎の市民祭りがあり、市のロビーでパネル展示をするので、個別に事務所を回り呼びかけた結果、市内NPO60団体ほどのうち、40団体程度が参加してくれた。声をかけるだけでなく、こまめに参加を促さなければ、地域の団体を巻き込めないような気がする。

テーマをいろいろ考えて行く必要がある。NPOと行政が協働して向かっていく先の最後は県民なので、県民の方にアピールしていく必要がある。たとえば、プラザでマッチングシステムを作って、物の方はマッチングさせたが、寄付金の問題等をもう少し考えながら、企業に対しても目を向けて協働していく仕組みや協議を考えてもよいのではないかと。3年前のテーマ別協議は、かなり活発になされた記憶があり、テーマをできるだけ広げて考えていただけたらと思う。

環境を中心に動いているが、ようやくこの2年くらいで、県も企業に目を向けてきたと思う。

プラザでも、これまで以上に、いろいろな会議に経営者協会や連合等に加わってもらっている。1つには災害関係があるが、もう1つには団塊の世代、2007年問題を考えておられて、地域に戻って活動する場を確保して欲しいというのがある。これは、連合レベルとしては持つておられるが、個々の企業レベルとなるとわれわれもアクセスが難しい。60歳を超えた方がどういう形で社会貢献していくか、総論賛成でも各論はそれぞれの地域なりNPOに任されている形で、そのマッチングが難しい。考えているマッチングシステムは、そこまで入れようという絵はできているが、現実にはまだ機能していない。東京、大阪ではかなり現実のものとして動いている。この面でも、NPOが1つの受け皿になっていただければと思っている。

今年、県民交流広場事業を推進する地域協働課が各県民局にできたが、NPO活動との連携について、少なくとも中播磨にはあまり伝わっていない。従来の地縁系組織を中心とした中で本格稼働が始まるが、NPO協議会へのメッセージはない。交流広場事業をひとつの契機として、アドバイスやサポートという関わりがあれば、それをもとに地域のNPO活動が広まっていくのではないかと。担当者任せではなく、体制として、NPOとの協働会議の窓口を正式に例えば県民局の地域協働課と決めて、地域のグループとやっていくことができれば、地域でも協働会議ができるのではないかと。思う。

ビジョンでは、交流広場事業について、NPOと連携してと書いてあるが、現場では連携できているところが少ない。

地域の活動を支えるサポーターがいるので、そのあたりと連携していくことを考えている。

プラザにも来てもらい、地域の支援機関や地域づくり活動を支えるサポーター、中間支援機関等が、顔を合わせ、課題があれば検討するということをしている。これは県民局の県民運動課が去年から実施しており、そこで考えていくことかとも思う。

今日の意見をもとに運営幹事会で協議の上、次回全体会で素案を出したい。

(5) その他

「ひよこむ」(「県民交流広場支援SNS」)について

・和崎 宏氏より(NPO法人はりまスマートスクールプロジェクト理事長)説明

